# 野村日本バリュー厳選投資

追加型投信／国内／株式

**2026年2月19日以降、お買付けお申込みの受付けを一時停止しています。（2026年11月2日時点）**

NOMURA JAPAN VALUE

## 2026年7-9月のパフォーマンスと設定から一年の振り返り

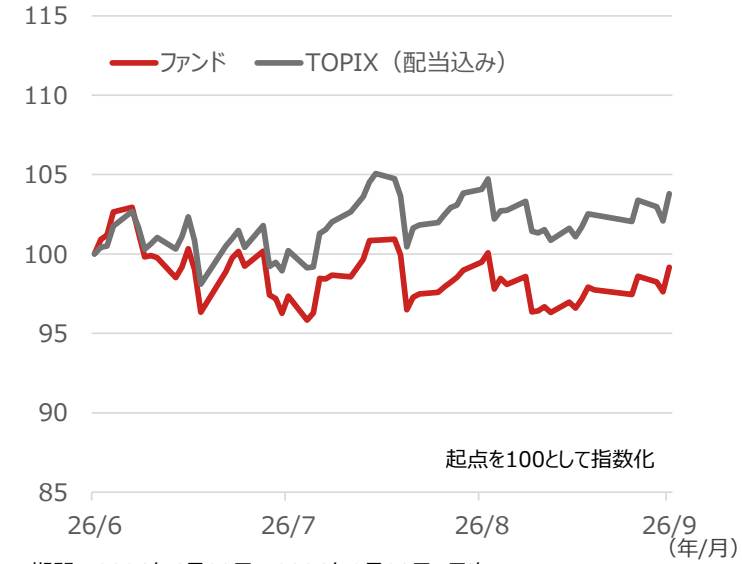
## 1. 2026年7-9月のファンドのパフォーマンス

**AI関連銘柄や機械関連銘柄の下落が影響し、ファンドはTOPIX（配当込み）に対して劣後する展開に**

国内株式市場は、期初、AI半導体関連株の大幅な下落を受け、軟調に推移する場面が見られました。その後は、金融株や内需関連株など、それまで相対的に出遅れていた銘柄に買いが向かい、国内企業の堅調な決算や業績拡大への期待も相まって底堅く推移しました。期末にかけては、米国の半導体関連株の上昇を受け、日本国内のAI半導体関連株も持ち直すなど、TOPIX（配当込み）は四半期で上昇しました。

こうした環境下、野村日本バリュー厳選投資（以下、ファンドといいます。）の期間騰落率は-0.8%となり、参考指数であるTOPIX（配当込み）が上昇する中で下落する形となりました。ファンドでは、主要な半導体製造装置銘柄を昨年末から年初にかけて売却していたため、これら銘柄群の下落による影響を回避しました。一方、AI分野の成長性については、中長期的に強気な見方を維持しており、成長期待から継続保有していたAI関連銘柄の下落がマイナスに影響しました。また、決算発表を通じて部材の調達難が顕在化した機械関連銘柄の下落も、ファンドのパフォーマンスを押し下げました。金利上昇を背景とする一部銀行株の上昇などがTOPIX（配当込み）対比でプラスに寄与したものの、マイナス要因を補うには至らず、ファンドのパフォーマンスはTOPIX（配当込み）を下回りました。

**2026年7-9月の**
**ファンドとTOPIX（配当込み）の推移**




期間：2026年6月30日～2026年9月30日、日次
ファンドは基準価額（分配金再投資）を使用。基準価額（分配金再投資）とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものとして計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。
TOPIX（配当込み）はファンドのベンチマークではありません。
出所：ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

**前四半期末（2026年6月末）時点において**
**組入上位としていた主なAI関連銘柄の年初来の株価推移**




期間：2025年12月30日～2026年9月30日、日次
（）内の数字は、2026年6月末時点の組入順位を表したものです。
出所：ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は、ファンドの上位組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買等の推奨、また価格等の上昇や下落を示唆するものではありません。
上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

## 2. 設定から一年の振り返り

**設定から2026年3月にかけてはTOPIXを上回るも、その後は苦戦が続き、設定来では劣後する結果に**

ファンドは2026年10月22日に設定から一周年を迎えました。日頃よりファンドをご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。

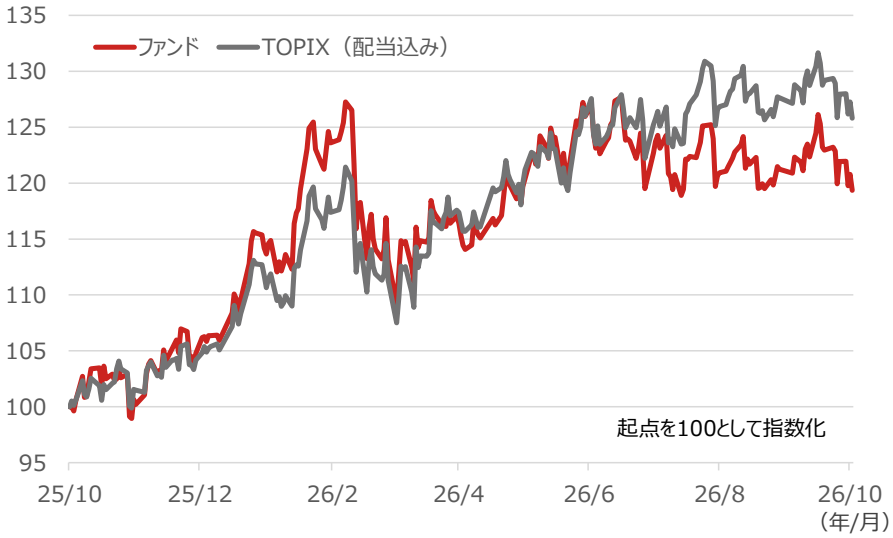
この1年間の運用を振り返ると、設定来のパフォーマンスは2026年3月末まではTOPIX（配当込み）を上回っていたものの、その後は相対的に苦戦し、2026年10月22日時点ではTOPIX（配当込み）を下回る結果となりました。

ファンドでは、「実力のある強い企業を安く買う」という運用哲学に基づき、銘柄を厳選し投資をしています。高い競争力や成長力を持つ企業であっても、その期待がすでに株価に十分織り込まれていれば、投資対象としての魅力は変わります。一方、市場の注目を十分に集めていなくても、保有する「資産」や持続的な「収益力」、「技術・ブランド力」に照らして、株価が割安にとどまる企業があります。

設定からの1年間は、この考え方に基づく投資判断が成果につながった局面があった一方、銘柄の選択や入れ替えが、市場の上昇に十分追随できない局面もありました。特に、設定当初に上位に組み入れていた半導体関連銘柄については、今後の利益成長が株価に一定程度織り込まれたと判断し、年初に売却を進めましたが、その後も株価が上昇したため、上昇局面を十分に捉えることができませんでした。加えて、7月以降、AI分野の成長の恩恵が及ぶと見込んで投資していた関連銘柄の株価が下落し、パフォーマンスを押し下げる形となりました。

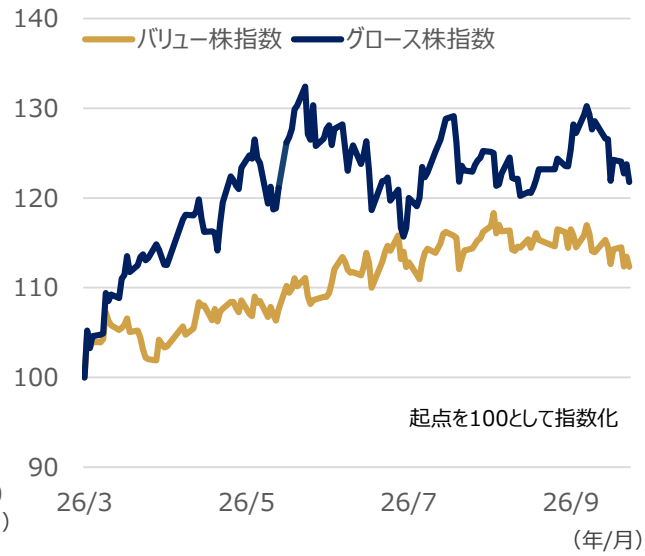
直近約半年においては、バリュー株に対しグロース株が優位となる市場環境もファンドにとっては逆風だったと考えますが、相対的に苦戦した主な要因は上述の通り個別銘柄の選択にあると考え、この結果を真摯に受け止めています。

**設定来のファンドと**
**TOPIX（配当込み）のパフォーマンス推移**




期間：2025年10月21日（設定日前日）～2026年10月22日、日次
ファンドは基準価額（分配金再投資）を使用。基準価額（分配金再投資）については1ページをご参照ください。TOPIX（配当込み）はファンドのベンチマークではありません。
出所：ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

**直近約半年における**
**バリュー株指数とグロース株指数の推移**




期間：2026年3月31日～2026年10月22日、日次
バリュー株：Russell/Nomura Total Market Value インデックス、グロース株：Russell/Nomura Total Market Growth インデックス。いずれも配当込み。
出所：ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
＊後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

## 2. 設定から一年の振り返り（続き）

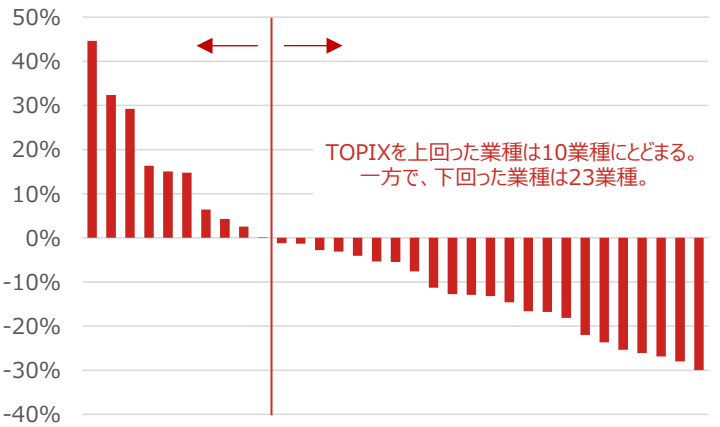
### 足元の物色動向の変化に投資機会を見出す

年初来の日本株市場（2026年9月末まで）の騰落率を東証33業種別にみると、TOPIX（配当込み）に対して上回ったのは10業種にとどまっており、市場の上昇を担う業種は限られています。ファンドでは、企業の成長力だけでなく、その成長期待が株価にどの程度織り込まれているかを重視して投資を行なっています。そのため、特定の業種に成長期待を背景とした資金流入が集中し、割安性よりも成長期待が株価をけん引する局面では、市場全体の上昇に十分追随しにくい面があります。

一方、足元では、これまで上昇が目立っていた銘柄が売られ、出遅れていた銘柄が見直されるなど、物色動向に変化の兆しが見られます。こうした変化は、企業価値に対して割安な銘柄が再評価される機会につながると考えています。

ファンドでは、7月から9月にかけて、株価調整によって企業価値に対する割安感が強まったと判断した電子部品銘柄などへの投資を進め、ポートフォリオの見直しを図りました。銘柄選別にあたっては、現在の株価の割安性に加え、競争力のある技術や成長分野での需要拡大などを通じて、中長期的に収益力を高められるかを重視しています。引き続き、「実力のある強い企業を安く買う」という運用哲学のもと、企業価値の向上が期待される銘柄を厳選し、運用成果の改善に努めてまいります。今後ともファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

**TOPIX（配当込み）に対する業種別騰落率**
**年初来（9月末まで）**




2025年12月末～2026年9月末
業種は東証33業種によります。TOPIX（配当込み）に対して上回った／下回った業種の傾向を説明しているため、各業種の名称は省略しております。
出所：ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

### 2026年9月末時点の業種別配分

| 業種 | ファンド（純資産比） | TOPIX |
|---|---|---|
| 電気機器 | 14.6% | 21.0% |
| 銀行業 | 13.9% | 12.9% |
| 化学 | 7.2% | 4.5% |
| 卸売業 | 6.6% | 7.5% |
| 保険業 | 6.5% | 3.5% |
| その他の業種 | 49.6% | 50.6% |
| その他の資産 | 1.6% | - |

TOPIX（配当込み）/TOPIXはファンドのベンチマークではありません。

### 2026年9月末時点の組入上位10銘柄

組入銘柄数：50銘柄

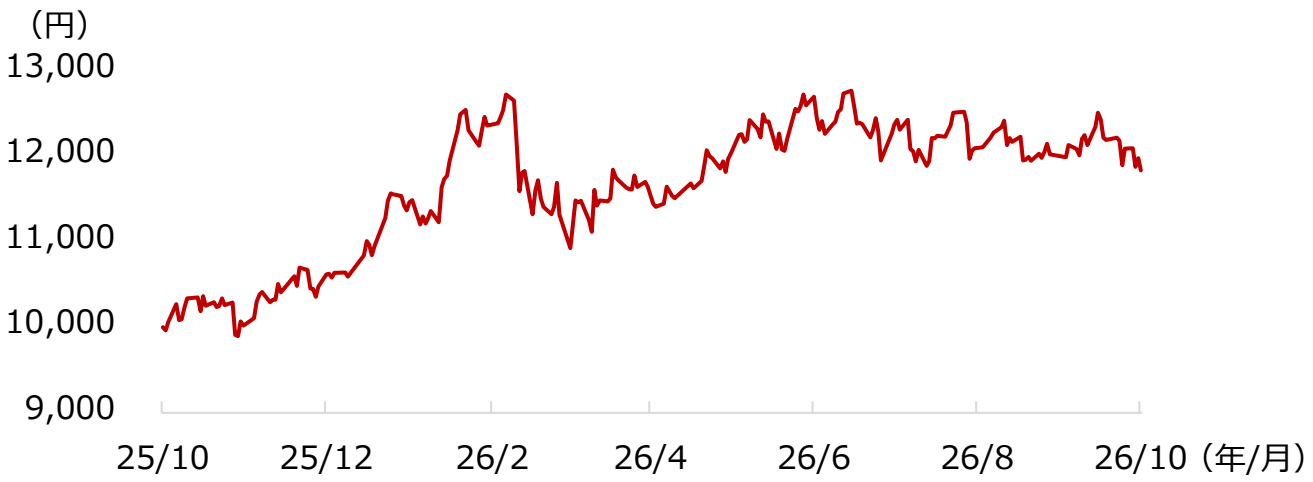
| 銘柄 | 業種 | 市場 | 純資産比 |
|---|---|---|---|
| 三井住友フィナンシャルグループ | 銀行業 | 東証プライム | 5.8% |
| ゆうちょ銀行 | 銀行業 | 東証プライム | 5.8% |
| トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 東証プライム | 4.6% |
| 三井物産 | 卸売業 | 東証プライム | 4.0% |
| 第一ライフグループ | 保険業 | 東証プライム | 3.2% |
| 京セラ | 電気機器 | 東証プライム | 3.2% |
| 東京海上ホールディングス | 保険業 | 東証プライム | 3.2% |
| リクルートホールディングス | サービス業 | 東証プライム | 3.1% |
| 東日本旅客鉄道 | 陸運業 | 東証プライム | 3.0% |
| 大塚ホールディングス | 医薬品 | 東証プライム | 3.0% |

業種は東証33業種分類によります。純資産比は、マザーファンドの純資産比とファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

上記は、ファンドの上位組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買等の推奨、また価格等の上昇や下落を示唆するものではありません。
上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

＊後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

## ファンドの運用状況　基準価額（分配金再投資）の推移




期間：2025年10月22日（設定日）～2026年10月22日、日次
基準価額（分配金再投資）とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものとして計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。
したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

●東証株価指数（TOPIX）の指数値及び東証株価指数（TOPIX）に係る標章又は商標は、株式会社ＪＰＸ総研又は株式会社ＪＰＸ総研の関連会社（以下「ＪＰＸ」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数（TOPIX）に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）に係る標章又は商標に関するすべての権利はＪＰＸが有します。ＪＰＸは、東証株価指数（TOPIX）の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●Russell/Nomura Total Market Value インデックスおよびRussell/Nomura Total Market Growth インデックスの知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社およびFTSE Russellに帰属します。

＊後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

「野村日本バリュー厳選投資」

【ファンドの特色】

**●信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。**

**●わが国の株式を実質的な主要投資対象※とします。**
※「実質的な主要投資対象」とは、「ジャパン・ストラテジック・バリュー集中型マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。

**●株式への実質的な投資にあたっては、わが国の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）している株式の中から、資産・利益等に比較して株価が割安と判断され、今後の株価上昇が期待できる銘柄の中から割安修正のきっかけまでの期間を考慮して厳選し、投資を行なうことを基本とします。**

**●株式の実質的な組入れにあたっては、フルインベストメントを基本とします。**

**●ファンドは「ジャパン・ストラテジック・バリュー集中型マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。**

**●原則、毎年9月18日（休業日の場合は翌営業日）に分配を行ないます。**
**分配金額は、分配対象額の範囲内で、原則として配当等収益等の水準及び基準価額水準等を勘案し、委託会社が決定します。**
＊委託会社の判断により分配を行なわない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

【投資リスク】

ファンドは、株式等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

| | |
|---|---|
| ●信託期間 | 無期限 （2025年10月22日設定） |
| ●決算日および収益分配 | 年1回の決算時（原則9月18日。休業日の場合は翌営業日）に分配の方針に基づき分配します。 |
| ●ご購入価額 | ご購入申込日の基準価額 |
| ●ご購入単位 | 1万口以上1口単位（当初元本1口＝1円）または1万円以上1円単位（ご購入コースには、分配金を受取る一般コースと、分配金が再投資される自動けいぞく投資コースがあります。原則、ご購入後にご購入コースの変更はできません。）<br>※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。 |
| ●ご換金価額 | ご換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額 |
| ●課税関係 | 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、NISA（少額投資非課税制度）の適用対象ファンドにおいてNISAを利用した場合には課税されません。ファンドは、NISAの「成長投資枠」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 |

【当ファンドに係る費用】 （2026年11月現在）

| | |
|---|---|
| ◆ご購入時手数料 | ご購入価額に3.3%（税抜3.0%）以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額<br>＊詳しくは販売会社にご確認ください。 |
| ◆運用管理費用（信託報酬） | ファンドの純資産総額に年1.6005%（税抜年1.455%）の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 |
| ◆その他の費用・手数料 | 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。<br>※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。 |
| ◆信託財産留保額（ご換金時） | 1万口につき基準価額に0.3%以内の率を乗じて得た額<br>（2026年7月17日現在0.2%）<br>※換金に応じて発生すると見込まれる費用水準等を踏まえ、信託財産留保額の水準を変更する場合があります。 |

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。


お申込みは
NOMURA 野村證券
商　　号：野村證券株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第142号
加入協会：日本証券業協会／一般社団法人資産運用業協会／
一般社団法人金融先物取引業協会／一般社団法人第二種金融商品取引業協会／
一般社団法人日本STO協会

設定・運用は
NOMURA 野村アセットマネジメント
商　　号：野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第373号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会／
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先：野村アセットマネジメント株式会社
●サポートダイヤル 0120-753104 ＜受付時間＞営業日の午前9時～午後5時
●ホームページ
https://www.nomura-am.co.jp/

【当資料について】

●当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。

●当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

●当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。

●当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

【お申込みに際してのご留意事項】

●ファンドは、元金が保証されているものではありません。

●ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

**●お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。**